

平成 31 年 4 月 2 日

入学式式辞

滋賀短期大学
学長 秋山元秀

今日は校門の桜がみなさんを迎えるようにつぼみも膨らんでいます。

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。ようこそ滋賀短期大学へ！

学長として、本学の教職員、在校生を代表して、本日ここに心から歓迎申し上げます。

同じく保護者や家族のみなさんにも、おめでとうございますと申し上げますとともに、大事なお子様を、二年間この滋賀短期大学にお預けいただけることにお礼を申し上げます。全教職員、二年後には入学生のみなさんがしっかり自立した社会人になって卒業できるように、全力を尽くす所存でございます。

そして本日、入学生のみなさんのために、ご多忙の中をご臨席いただいているご来賓の方々にも心から御礼を申し上げます。日頃から厚いご支援をいただいております、本日もお運びをいただきまして本当にありがとうございます。新しい入学生を迎えて本学も思いを新たにして様々な課題に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

さて本日入学生のみなさんの中に、15 人の外国人留学生の人たちがいます。ベトナムとスリランカからの留学生です。また社会人特別入試や長期高度人材育成の制度で入学された社会人の方も 16 名おられます。その社会人の中には、聴覚障害者の方もおられて、そのために今日も入学式にも手話通訳をしていただいております。

このように今年の入学生のみなさんは、普通に日本の高校を卒業してすぐに進学した人だけではなく、海外から、また一旦社会に出て働いたことがある人など、様々な立場や経験をもった人たちが集まっているということがいえます。この滋賀短期大学でも、以前は中国やモンゴルなどから留学生が入学していたことがありましたが、ここ数年はありませんでした。社会人の方は現在の在校生の中にもおられますが、これほど多数の社会人の方を受け入れるのは初めてです。すなわち今年この滋賀短期大学では、以前よりも多様な学生さんたちが学ぶようになったともいえます。今日のはじめにこの多様性ということについて少し考えてみたいと思います。

多様性という用語は、もともとは生物多様性が問題になって一般的にも使われるようになったと思います。生物多様性 Biodiversity (バイオダイバーシティ) というのは、地球上には多様な生物が存在し、それが多様な生態環境を保ち、その中で多様な種が生息しており、それが多様な遺伝子を伝えていくという状態を示すための用語です。そしてその多様性を大切にするために、世界では 1992 年に生物多様性条約という条約が結

ばれ、日本も参加しています。その基本の精神には、本来の地球世界は、長い時間の中でそれぞれの生物が個性をもちながら育まれ、お互いに支えあいながら環境を作りあげてきたのであって、多様性があるのはじめて全体も安定調和した状態が実現しているのだという考え方があります。だからこそ生物の一つの種にすぎない人類が、科学技術の発展で環境を大きく改変し、生物の多様性を損なうようなことは、人類も含めた生物世界全体を破滅させるという危機感があります。

人間の文化や社会でもこの多様性という考え方は大切です。文化については国連のユネスコで文化表現の多様性（Diversity of Cultural Expression）を守ろうという条約が2005年につくられました。そのほかにも地域多様性とか民族多様性を尊重しようという呼びかけが行われ、多文化共生社会の実現ということが現代社会の大きな課題になってきました。

しかし同時に、現在、世界の各地で移民の問題が深刻になったり、民族間の争いが起こったりしています。とくに移民の問題では、文化や社会の多様性に寛容であったヨーロッパの国々でも、難民の受け入れをめぐる混乱が起きています。また移民でできた国として、移民を受け入れることによって豊かになってきたことを認めていたアメリカ合衆国では、隣の国との間に壁を作って特定の層の移民を拒否するような政策がとられようとしています。

現代社会は様々な分野でグローバル化が進み、それが世界の発展、人類の幸福をもたらすとされてきたのが、そんなに一方的にはいかないことが認識されるようになったともいえるでしょう。

21世紀ももうすぐ20年が経とうとしています。みなさんのほとんどの人は、21世紀の生まれであり、20世紀は過去の世紀になっているかもしれません。20世紀の前半は戦争の時代でした。後半はそれを克服して平和で安定した世界をつくること、そして経済的に豊かになることを目標にみんなが努力した前向きの時代であったといえるでしょう。しかし21世紀になってその成果が必ずしもいい方向には出ていないことに、みんな戸惑っているように見えます。とくに日本では相次いで起こった大規模な自然災害や必ずしも良くならない経済に対して不安感が広がっているようです。

ここで私は新入生のみなさんに希望にあふれる話をせずに、何か暗い話をしようとしているわけではありません。これからそれぞれが目指す分野で勉強をしてもらいながら、社会全体の事や世界のことにも関心を持ってもらいたいと思っているからです。それはこれからみなさんが目指そうとしている専門分野においても必ず関係があります。

たとえば幼稚園教諭や保育士を目指している人なら幼稚園や保育園で、医療秘書を目指している人なら病院で、外国の人と接する機会は増えていきます。栄養士を目指す人もお菓子作りのパテシェを目指す人も、外国の人とかかわらなくても、食事を作ったりお菓子を作ったりする材料は海外から輸入されるものが増えていくでしょう。そもそも外国の人たちとの触れ合い、国際化などということは、本当に身近な地域ですで大規

模に始まっているのです。それに対してみなさん自身の国際化をどう進めていくのかが問われていきます。

そこでこの大学にいる間に、同級生や友達に留学生の人がいたらどうでしょう。たとえばみなさんの中で、ベトナムやスリランカに行ったことがある人がいるでしょうか。行かないまでもそれらの国についてどれだけ知っているでしょうか。その国の人たちがどんな生活をして、どんなことを考えているのか、日本に来てどう感じているのかなど、いろいろなことを話すことによって、みなさん自身の国際性が高まるに違いありません。留学生の人たちもみなさんと交流することを楽しみにしているはずです。

また社会人の人たちとの交流も、お互いにより効果をもたらすと期待しています。最近、地域でも職場でも、世代を超えた交流がないということが問題になっています。社会での経験をもっていない学生諸君と、様々な世代の社会人の人たちとの交流が、ここでの学園生活を通じて実現することを期待しています。

このように今年の入学生のみなさんは、多様な人たちとの交流によって、みなさんの視野が広がり、学ぶ姿勢を豊かにすることができると考えています。ですから留学生の人たちや社会人の人たちも、自分たちだけで集まるのではなく、高校生から大学生になったばかりの人たちに、積極的に話しかけてください。お願いします。

今、国際化とかグローバル化とか言いましたが、一方でもう一つ考えてほしいのはこの滋賀県や地元の地域のことです。**Think globally Act Locally**（グローバルに考えローカルに行動せよ）という言い方がありますが、グローバルとローカルは対極にある方向ですが、ともに現代社会がとるべきもっとも重要な方向だと思います。ローカルというと地方のとか郷土のという意味もありますが、足元の地域の、身近な地域のという意味でもあります。

私たちの滋賀短期大学では、地域との連携ということをとくに大学全体の大きな方針として掲げていますが、心技一如の実践的な教育を建学の精神にして、地域に根差し、地域の役に立つ教育研究をすすめることをモットーとしています。みなさんが実際にどこ出身なのか、将来滋賀県内で働くようになるかどうかは別にして、この滋賀短期大学で勉強する以上、滋賀県や大津市、あるいはそれ以外の市町についても、それはどんな地域性をもつところなのか、そこにはどんな課題があるのかなどを知って、自分の専門分野から何ができるだろうかと考えてほしいと思います。それは本当の意味での実践的ということでもあります。

滋賀県、昔の呼び方でいえば近江は、歴史も文化も豊かですし、面白いことがいっぱいある地域です。二年間という短い時間ではありますが、精いっぱい学園生活を謳歌してください。滋賀県を基盤にしているこの滋賀短期大学で、みなさんの未来がしっかりと根付くことを念願して式辞といたします。